尾道近代たてものマップ
近代化遺産探訪ガイド

ONOMICHI
発行
尾道ユネスコ協会
〒722-8501
広島県尾道市久保一丁目15-1
Tel.（0848）25-7367

Sketches & Words：渡邊義孝（Yoshitaka Watanabe）
Design：小野田（Tamaki Ono）＋竹内かな（Kana Takeuchi）
協力：尾道大学・ＮＰＯ法人尾道空き家再生プロジェクト
平成23(2011) 年１月発行

Copyright © 2011 Onomichi UNESCO Association All Right Reserved

11 大浜埼灯台の関連施設

因島大浜町／明治43(1910)年

川のような急流で知られる瀬戸内海、布刈瀬戸。潮の干満に加えて潮流を調べて船に知らせる大切な施設だった石造灯台。(明治27[1894]年) 無人になったが今も現役。手前の３つの白い塔は「船舶通航潮流信号所」[土木遺産認定]。の建物で、船の交通状況を可動羽により○△□で表示したもの。他に、東流・西流を腕木の回転で告げ知らせた「潮流信号機」も保存されている。

12 白滝山荘（旧ファーナム邸） 登録

因島重井町1233／昭和6(1931)年

アメリカ人の建築家ヴォーリズが宣教師のために設計した山の中腹の邸宅。赤く塗られた柱や筋交いが外から見えるハーフティンバーというデザインが特徴。オリジナルの木製上げ下げ窓が残っているというのもたいへん貴重。現在はペンションとして活用。

13 中野旧家群

瀬戸田町中野／江戸時代後期～大正期

黒い杉板の腰壁と白い漆喰のコントラストが美しいこの集落は、生口島北部の中野という穏やかな田園地帯に建っている。幕末から明治・大正期に、製塩・海運業そして果樹の問屋として栄えた家々が、長屋門（両端に部屋をそなえた屋根付きの門）とともに今も残る。純和風の景観は、江戸時代にタイムスリップしたかのよう。

10 向島紡績株式会社

むかいしまぼうせきかぶしきがいしゃ

向島町539

大正～8(1918～19)年

ノコギリ屋根は、広い工場の内部に、北側からの安定した光を取り入れるために考え出されたデザイン。レンガの壁がそのまま残っているのは特に貴重だ。第２次大戦中、捕虜となったイギリス兵ら216名がここに収容され、終戦（昭和20[1945]年）までに23名が亡くなった。彼らを悼むモニュメントが道路際に取り付けられている。

07 久山田貯水池堰堤 登録

ひさやまだ ちょすいいち えんてい

久山田町／大正14(1925)年

尾道大学キャンパスのそばにある水源池。尾道近代水道の父、山口玄洞前の寄付も受けて作られたこの環境（ダム）のこと。長さ75m、高さ22m、コンクリート造）のおかげで、水不足に悩む尾道の人びとに清潔な水が供給されるようになった。

08 イシキ事務機株式会社

じむきかぶしきがいしゃ

古浜町6-17／明治33(1900)年

堂々とした煉瓦の瓦屋根にはツノのような尖塔飾り、縦長の窓には上げ下げ窓がまだ残っている。そして南京下見板とくれば立派な擬洋風建築。実はこの建物は110年前の警察署！　当時、本通り商店街（土堂）に建てられたものを解体、約2.5km離れた古浜町に建て直して事務所として活用している。ちなみに本当の「建物の顔」は、海側を向いている。

09 中国電力山波変電所 登録

ちゅうごくでんりょくさんば へんでんしょ

山波町／大正12(1923)年

国道２号線、尾道水道に面して建つ赤レンガ建築。かつてここには広島電気の火力発電所があり、その付属施設として建てられた。中国電力に統合された後は単独の変電所として現在も稼働している。登録文化財プレートが誇らしげに飾られ、力強い近代産業の息吹を今に伝えている。

06 藤井川公民館（旧美ノ郷村役場）

ふじいがわこうみんかん

美ノ郷町本郷2274-2／大正～昭和初期

東側の部分がオリジナルの外観。南京下見板と縦長の窓、浅い軒の出といった洋館デザインが、当時の公共建築の流行を物語る。内部も漆喰の大壁が残っている。

04 旧尾道鉄道４号トンネル

きゅうおのみちてつどう　ごう

木ノ庄町木門田

尾道駅前から北へ、栗原・三成・石畑を経て御調町の市まで結んでいた尾道鉄道。バス路線が便利になって昭和39(1964)年に廃止となり、線路はほとんどなくなったが、トンネルはいくつか残っている。この４号トンネルは大正15(1926)年に開通したもの。鉄道施設は「機能だけ」と思いがちだが、上部には三角のレンガの飾りがあり、おしゃれにも気をつかっているのがわかる。レンガは珍しいフランス積み。地域の交通手段として愛された鉄道の跡をたどってみたい。

05 旧原田郵便局

きゅうはらだ ゆうびんきょく

原田町蛭山田3696-2／昭和６(1931)年頃

小綺なピンクのボディに赤い木枠のアクセント。窓はもちろん縦長窓、瓦屋根の正面にちょこんと破風が付いている。近代化システムの代表だった郵便局は、その多くが洋館風に建てられた。これもその典型。平成11(1999)年まで働いた後、現在はガラス工房として活用されている。

01 旧村井医院

きゅうむらいいいん

御調町市／大正～昭和初期

空き家から再生されつつある小さな洋館。２列の縦長の窓は、いまも上げ下げ窓が残っている。その窓の上の三角飾り（ペディメント）や凝石仕上げの外壁、おでこの雷文ラインなど近代建築の要素がたっぷり。開業当時のレントゲン機器や手術台などが現存するのも貴重。地元のアーティストが自力で改装中。今後、アートの発信地としても愛される空間になるだろう。

02 旧市村郵便局

きゅういちむらゆうびんきょく

御調町市／母屋＝江戸後期、一部昭和４(1929)年増築

歴史の移り変わりをみことに表している建物。奥の母屋と石蔵の土蔵は160年以上前のもの。明治４(1871)年に日本の近代郵政がスタートした直後に「市」村の郵便局としてオープン。左の神殿風のモルタルの玄関部は昭和４(1929)年に建てたという。土蔵の手前の店舗部は上部の外壁がそのまま看板のように立ち上がる「看板建築」になっている。どこをとっても「その時代らしさ」が詰まっている。

市重文 03 御調歴史民俗資料館（旧河内村役場）

みつぎれきしみんぞくしりょうかん　かわちむらやくば

御調町丸河南86-1／明治期

洋風なのか、和風なのか判断に悩む、玄関の入母屋の屋根は和の要素。でも南京下見板や縦長窓などは洋館のデザイン。そこが明治時代の人たちに、ちょっと進歩的な雰囲気を感じさせたのだろう。２階には村議会議場があり、昭和30(1955)年まで村役場として使われた。